

平成 26 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立鳥取東学校

学校長 藤 原 辰 広

評 価 日	平成 27 年 2 月 17 日 (火)	
評 価 ・ 提 言		学校の所見・改善策等
1. 今年度の自己評価について (1)重点目標（「しのめプロジェクト」の推進）の達成状況 ①学力向上のための教科指導の充実と授業力向上 ・学習指導に対する生徒の満足度が高く、素晴らしい。 ・教員の授業力を高めるためにどんな取組をしているか。 ・生徒が自主的に学ぶようにどんな取組をしているか。 ・全国模試における偏差値の目標は達成できていないが、近づいている。 ②人間力の育成 ・とても大切なことだと思う。「高い志」は、単なる夢や目標でなくもっと強いものだと思う。鳥取人の「煮えたら食わあか」でなく主体的に動く、自分の職業のことだけでなく、どう社会に役立つ人間になるか考える生徒を育ててほしい。 ・きれいに掃除がされていた。あいさつをもっとできるようにになると、さらによくなる。 ③生徒指導の徹底と健康・安全管理の充実 ・高校生のスマートフォン使用時間が長いという調査結果が新聞に出ていた。かつては、若者が多く集まる場所は騒がしかったが、今は各自がスマホに熱中して静かである。人間同士のコミュニケーション不足が深刻だと思う。 ・講演会は、同じ講師に長期間依頼しないで、一定期間ごとに変えてみてはどうか。 (2)説明・公表について ・特に意見なし。 2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について		・学校裁量予算でさまざまな独自事業を行っている。 ・年間を通じて担任による面接、「鳥取学」推進事業や学部・学科講演会を行っている。 ・各種の取組で、生徒の進路意識の醸成はおおむね達成されている。 ・近隣町内会役員と生徒会執行部の話し合いの場を持った。地域と学校の連携を進めたい。 ・スマホと上手につきあえるように、今後ともくり返し指導をしていく。 ・講師については検討していく。

・コミュニケーション技術推進事業、教科指導力向上事業で教員の授業力向上に取り組んだことについて、生徒のコミュニケーション力を伸ばす取組を進めてほしい。傾聴やグループディスカッションやディベートなどの機会を持ってほしい。 ・理数科関連で、1年生の理数科希望者を対象に自然科学実験セミナー、2年生で先端科学実習、3年生でサイエンスマインド育成事業を行ったことについて説明した。 ・1年生を対象に「鳥取学」推進事業として7コースの校外学習と7コースの講演会を実施した。高評価を得た。 ・普通科・理数科研修旅行について説明した。 ・岡山大学から10学部10名の講師に来校してもらい学部・学科講演会を実施、保護者進路講演会について説明した。 ・今年度新規に生徒会活動推進事業を行った。その中で地域との交流事業として、近隣町内会役員と生徒会執行部の話し合いの場を持ったことは高評価を得た。	・研修で学んだことは、授業の中に取り入れている。 ・2年の先端科学実習は、来年度は研修旅行の中に組み込む。 ・来年度も継続していく。 ・生徒・保護者に好評だった。 ・話し合いをもとに、来年度は実施可能な交流を行う。
3. 取組改善のための提言 ・以前中国の学校と交流していたが、どうなったのか。グローバルな視点を持つために交流は有意義ではないか。 ・スマートフォンと上手につきあう方法を指導してほしい。 ・危機管理のために、悪い情報ほど早く伝え、早く対処することが大切である。	・鳥取県と河北省の間で交流再開の話がある。どのような交流が可能か考えている。 ・機会をとらえて指導していく。 ・そのように心がけていく。